

豊後高田市の文化財

市指定文化財



豊後高田市教育委員会

第4節 市指定文化財

真木大堂仁王像

■有形 ■指定日：昭和51年4月1日
■所在地：田染落 ■年代：鎌倉時代

像高、阿形 225 cm、吽形 240 cm。
樟材寄木造、筋肉隆々、忿怒相。かつて馬城山伝乗寺が隆盛を誇っていた頃、聖地守護としての遺物である。市内では珍しい木製の仁王像である



長安寺宝篋印塔

■有形 ■指定日：昭和52年4月1日
■所在地：加礼川 ■年代：安土桃山時代

総高 227cm。正面に「宗叅公」とあり、耳川の戦いで戦死した屋山城主吉弘鎮信の供養の為に造られた事が分かる。鎮信は六郷山別当としても知られる。



釈迦堂宝篋印塔

■有形 ■指定日：昭和52年4月1日
■所在地：田染真中 ■年代：南北朝時代

総高 394cm。田染地域所在の宝篋印塔中最古銘で、永和 5 年 (1379) 造立。塔身、相輪は宝暦 8 年 (1758) の後補であるが、別石造りの隅飾突起を垂直に立てた姿は、鎌倉期宝篋印塔の名残を留めている。



天念寺不動種子石碑

■有形 ■指定日：昭和56年4月1日
■所在地：長岩屋 ■年代：南北朝時代

総高 159cm。巨大な自然石でできた碑。建武五年、阿闍梨順賢の逆修祈願の際に造られた。順賢は他史料からも当時の天念寺の仏事で重要な役割を果たした事が分かる。



寺ノ上板碑

■有形 ■指定日：昭和56年4月1日
 ■所在地：築地 ■年代：戦国時代

妙覚寺の真裏辺りに通称「殿墓」と呼ばれる戦国期の板碑群 12 基がある。「花月昭榮 於肥州合志表討死」などの銘文が記されており、都甲一族の戦死者を葬ったものとも考えられる。



胎蔵寺墓地国東塔

■有形 ■指定日：昭和56年4月1日
 ■所在地：田染平野 ■年代：戦国時代

総高 155 cm。

六郷山寺院衰退期に当るが、小形ながら塔身に金剛界四仏種子を配した秀作である。

大永7年(1527)8月17日の銘がある。



長添板碑

■有形 ■指定日：昭和56年4月1日
 ■所在地：草地 ■年代：南北朝時代

総高 112 cm。

都甲、真玉を結ぶ旧道の端にある。

碑にキリーク（阿弥陀如来）の種子がある。

正平10年(1355)乙未八月二十二日の銘が刻まれている。



朝平橋

■有形 ■指定日：昭和56年4月1日
 ■所在地：梅木 ■年代：明治時代

石造アーチ橋は江戸時代以来、長崎を中心に発達したといわれている。明治38年(1905)の銘がある。

側壁、裏込め、高欄などは当時の技法や生活を伝えている。

現在は、朝平橋自体使われなくなっている。



塔ノ御堂国東塔

■有形 ■指定日：昭和57年6月1日
 ■所在地：小田原 ■年代：鎌倉時代末期

総高267cm。石材は角閃安山岩。基礎は欠失。塔身の四方には舟形後背を薬研に彫り沈め、釈迦、薬師、阿弥陀、観音の坐像を蓮華座の上に半肉彫りしてある。相輪の上部は欠失している。



富貴寺国東塔

■有形 ■指定日：昭和57年6月1日
 ■所在地：田染落 ■年代：室町時代

総高 340 cm。

塔身から上部は綿密に製作。天沼俊一博士がこの塔を見て、国東塔と命名の発端となった。基礎二重、蓮花座は蓮弁、二弁輪廓だけ陰刻、笠波屋根、塔身の肩に納入孔がある。



龍泉寺国東塔

■有形 ■指定日：昭和56年7月1日
 ■所在地：田染真木 ■年代：室町時代

総高 258 cm。

元横峯龍泉寺(廃寺)にあった。河川改修の際、移建。現在、真木大堂の古代公園にある。

基礎二重、一面二個ずつの格狭間があり、笠は照屋根軒口の下端は水平。上端だけ隅で返っている。塔身部に納入孔が確認できる。笠の一部を欠損するが、どっしりとして落ち着いた美しさがある。



城山薬師堂跡四面石仏

■有形 ■指定日：昭和57年6月1日
 ■所在地：田染真木 ■年代：室町時代

馬城山伝乗寺末坊薬師堂跡と伝えられる場所にある。縦 197cm、横 258cm、高さ 227cm の自然石の四方に阿弥陀如来坐像をはじめとする10 躰の仏像を半肉彫している。



青宇田石像四天王

■有形 ■指定日：昭和57年6月1日
■所在地：美和 ■年代：室町時代

像高 75 ～ 80 cm。石材は角閃石安山岩。

延命庵寺の守護神といわれ、今は右から多聞天、持国天、増長天、広目天が一ヶ所に並べられている。

四像は丸彫り。いずれも憤怒形で武装している他、邪鬼を踏まず、蓮座上に立っているのが特徴。



安養寺文字庚申塔

■有民 ■指定日：昭和56年4月1日
■所在地：田染真中 ■年代：江戸時代前期

総高 200 cm、幅 50 cm、厚さ 8 cm。

寛永 2 年 (1625)、河野五蔵他 21 名が延命子孫繁昌、家内安全、武運長久、諸願成就などの願いを込めて建立したもので、阿弥陀三尊外六尊の種子を刻んだ珍しい文字庚申塔である。



真木大堂庚申塔

■有民 ■指定日：昭和56年4月1日
■所在地：田染真木 ■年代：江戸時代

総高 166cm。角閃安山岩。真木大堂の古代公園内にある。両側面に「享保十三 (1728 年) 戊申天」「八月吉祥日」の刻銘があり、塔身の下部には講中の名が刻まれている。庚申信仰が盛んであった江戸中期の秀作。



大聖寺板彫種子額

■有形 ■指定日：昭和60年5月1日
■所在地：来縄 ■年代：江戸時代前期

桧板に円相を彫くぼめ、荒神、辨天の種子を陽刻している。銘文から正保4年(1647)の製作である。

寺伝では神宮寺、荒神社の額といわれる。荒神図、辨天図及び荒神板木種子宝印などと共に、当地方に伝承されたものとされる。



大聖寺板絵辨財天

■有形 ■指定日：昭和60年5月1日
 ■所在地：来縄 ■年代：江戸時代前期

桧板に極彩色で辨財天の姿を描いている。岩絵具の剥落が著しいが、貴重な作品である。「寛永七年庚午十一月、吉祥日」との銘文があり、寛永7年(1630)の製作であることが分かる。



大聖寺板絵荒神

■有形 ■指定日：昭和60年5月1日
 ■所在地：来縄 ■年代：室町時代

板絵に胡粉下地を塗り、如来荒神図を画き荒神図として最も初期に属するもので当地はもとより全国でも珍しい板絵である。役の行者の感得といわれる荒神は、仏法僧三宝守護の神として寺院に祀られ、火の神、竈の神としての信仰を産み、如来荒神、忿怒荒神、子島荒神と三種の形像がある。



雷鬼の岩屋古墳

■史跡 ■指定日：昭和48年7月1日
 ■所在地：美和 ■年代：古墳時代後期

総長 7.5m の円墳で、市域に現存する最大規模の横穴式石室を持つ古墳である。石室は封土を取られて、なかば露出ししかけており、複室構造の横穴式石室が開口している。出土遺物は不明であるが、おそらく6世紀後半に築かれたこの地域の代表的人物の墓であると思われる。



春日神社潮汲御旅所跡地

■史跡 ■指定日：昭和54年9月21日
 ■所在地：呉崎 ■年代：江戸時代

早魃の際に、農民が神輿を奉じて呉崎浜で潮汲(雨乞い)を行った跡である。草地の春日神社に、その祭礼絵巻1巻が蔵されている。

現在、潮汲神事はないが、平成20年(2000)の1200年祭で、約70年ぶりに潮汲行事が行われた。



両田横穴群

■ 史跡 ■ 指定日：昭和56年4月1日
 ■ 所在地：田染相原 ■ 年代：古墳時代後期

両田薬師堂北の崖、約 30m の間に 11 の穴が穿たれているが、この内 2 つは岩屋であり、また一部防空壕として改変、または削平のため、本来の形状を留めるものは 3 基に過ぎない。横穴墓の形態や構造から古墳時代後期の造営であることは疑いない。



良薬山智恩寺跡

■ 史跡 ■ 指定日：昭和56年4月1日
 ■ 所在地：鼎 ■ 年代：中世

六郷満山本山の中では最も古い寺院の一つとされている。現在では、わずかに講堂と六所権現、国東塔（県指定）などが面影を伝えるにすぎない。かつては異国降伏祈祷（「長安寺文書」）に勤仕するほどの寺勢を誇っていた。



中林横穴群

■ 史跡 ■ 指定日：昭和56年4月1日
 ■ 所在地：田染池部 ■ 年代：古墳時代後期

田染盆地の北半部の平野部を見下ろす、標高 170m 余りの丘陵頂部近くに位置する。8 基からなり、すべて開口しているが玄室・羨道・羨門部などの構造は比較的よく残る。両田横穴墓群と構造も近く、年代もほぼ同時期と思われる。



佐野古墳

■ 史跡 ■ 指定日：昭和56年4月1日
 ■ 所在地：佐野 ■ 年代：古墳時代後期

河内公民館及び、河内中学校用地に跨る位置にある。封土をまったく失っているが、玄室の奥壁並びに側壁は幅 2m ほどもある巨大な板石で構築したもので、現在羨道部に残る低い側壁が元のままだとすると石室全長は約 3.8m となる。古墳の規模も比較的大きかったと思われる。



大樟

■天然記念物 ■指定日：昭和46年7月1日
■所在地：新栄

琴平社境内にあり。地上 1m の地点で幹周り 6m、樹齢は 600 年に及ぶ。樹勢もよく、樹木の状態も良い。

クスノキはクスノキ科。常緑高木で、関東以南の暖地に多く分布する。総じて 20m 以上となるものが多く、とりわけ社寺もおいて、「御神木」として大木をよくみる。



豊後のぼり

■無文 ■指定日：昭和53年11月8日
■所在地：草地 ■年代：現代

豊後織（五月織）の作成技術を織絵師竹内平兵衛より伝承し、手書きの「賤け獄七本槍」「宇治川の陣」等刷毛さばきは、迫真の美である。3巾×3丈、木綿に武者六～七人を両面より手書きしたもの。同氏は三巾物長さ三丈のものに改め、これに武者七、八名を配し日本一の五月織として売り出した。これがいわゆる豊後織の始まりである。



割掛遺跡

■史跡 ■指定日：平成5年8月5日
■所在地：来縄 ■年代：弥生時代～中世

弥生時代～古墳時代にかけての住居跡 30 軒あまりと、弥生時代終末～古墳時代初期のものとみられる石棺と石蓋土壙墓 5 基が発掘されている。なお、2号石蓋土壙墓と4号石棺墓からは、中国後漢鏡片が一枚ずつ出土している。桂川流域に展開する当時の拠点集落であった可能性が示唆される。



天念寺大般若経・奥書

■有形 ■指定日：平成9年4月8日
■所在地：長岩屋 ■年代：室町時代初期

二百五十巻に及ぶ大般若経の書写本で、その内の百七十六巻に奥書がある。これによると、正平 14 年 (1359) から翌年に書き写された原本に欠損が生じたため、応永 26 年 (1419) から応永 30 年 (1423) と永禄 7 年 (1564) に、書写や補修などを行なったことがわかる。



袈裟切り御名号

■有形 ■指定日：平成
■所在地：佐野 ■年代：安土桃山時代

掛け軸には「南無阿弥陀仏」と書かれている。御身代、御名号略縁記がある。御身代わり御名号として地区住民の信仰を集めた。親鸞聖人の墨書と伝えられているが、蓮如か顕如あたりとも思われる。掛け軸が納められている光現堂には常に施錠がしてあり、一年に一度、4月15日に開けられ、お祭りが行なわれる。



寺子屋跡（戴星堂）

■史跡 ■指定日：平成9年4月8日
■所在地：一畑 ■年代：安土桃山時代

九州最古の寺子屋跡。天正元年（1573）東都甲の一畑村に河野治郎右衛門が設立。治郎右衛門は武士であったが、帰農して里正となった。

ここで教えたのは読み・書き・算術などで、寺子は男子10～50人、女子5～20人ほどであった。

現在は石垣が残るのみ。山林となっている。



虚空蔵菩薩坐像

■有形 ■指定日：平成11年7月8日
■所在地：加礼川 ■年代：室町時代

中世には虚空蔵岩屋と呼ばれた三嶋社の裏の社に奉納してある。櫃の一木造による像で、像高90.5cm。像は小さな亀裂こそあるが、非常にきれいな状態で残っており、柔和な表情まではっきりとみてとれる。台座の部分は近年新しく造り替えられたもの。



小畑遺跡

■史跡 ■指定日：平成12年11月1日
■所在地：築地 ■年代：弥生～中世

都甲地区の築地地区と荒尾地区のほぼ中間で確認された、弥生時代中期から後期にかけての集団墓地群である。

初期的な形状とされている箱式石棺墓が20以上確認され、その他に石蓋土壙墓、木棺墓などあわせて60基以上の墓が発掘された。また周囲には祭祀をした形跡がみられる。



かんよう
涵養舎跡

■史跡 ■指定日：平成12年11月1日
 ■所在地：草地 ■年代：江戸時代後期

涵養舎は、草地入津に篤海量容が弘化元年(1844)に開学した私塾である。量容の信念に基づく論述と高邁な見識は塾生の欣仰を集め、向学心に燃える若者は福岡、山口、広島、長崎など遠隔の地をいとわず入塾している。

明治25年(1892)の閉校までの48年間で、門弟数は約3千人と推定されている。

うけもちのみや



うけもちのみや
保食宮参道石橋

■史跡 ■指定日：平成13年12月25日
 ■所在地：佐野 ■年代：江戸時代

橋長約5m、橋幅約2m。引瀬神社参道に架かる石橋(桁橋)。5枚の板石によって構成される。板厚は薄く、少し弧を描いている。



木造地蔵菩薩立像附木造小地蔵菩薩立像

■有形 ■指定日：平成13年12月25日
 ■所在地：水崎 ■年代：平安時代

檜材と思われる一木造、大小2体の地蔵菩薩像。両像とも足先が欠損しており、風化が進んでいるが、大像正面の納衣部分や、小像の背面には細かな彫刻の跡が残っている。

内削りを施しておらず、平安時代前半～中頃の仏像と考えられている。



春日神社潮汲絵巻

■有形 ■指定日：平成14年9月3日
 ■所在地：草地 ■年代：江戸時代後期

文政8年(1825)の大干魃のときに行なわれた大潮汲みの行列神事を、絵巻仕立てに絵画化したもの。人物の動きに表情や生彩があり、肥瘦の利いた墨線も流暢で、かなり手慣れた専門の絵師によるものと思われる。神事次第を記した貼り絵と、それを昭和28年(1953)に表具を改装した際にかき写した別一紙がある。



若宮八幡秋季大祭（御神幸）

■無形 ■指定日：平成24年11月23日
 ■所在地：御玉 ■年代：平安時代後期

永保4年(1084)に豊作を感謝して始まったと伝えられ、旧暦10月14日～16日に近い、土～月の三日間にかけておこなわれる。神輿の担ぎ手は「陸組」「川組」に分かれ、初日の「お下り」は、まず陸組によって玉津を練り歩いた後に川組に交代する。

川組は桂川に入り、「ワッショイワッショイ」と掛け声と共に川を渡る。対岸に着くと陸組に再度交代し、宮町の下宮に到着する。三日目の夜には「お上り」があり、再び神輿の川渡しが行われる。



地藏堂三層塔

■有形 ■指定日：平成24年12月27日
 ■所在地：金谷 ■年代：南北朝時代

基壇1段、基礎1段に、初層軸部・笠、二層軸部・笠、三層軸部・笠、相輪の各部からなる。各部材のうち初層の笠と二層の軸部、二層の笠と三層の軸部は一石からなり、各軸部の上端を笠下に嵌め込む。

全体に摩耗・風化が顕著だが、基礎四側面に各2区画の形の良い格狭間をあらわし、笠軒口はやや厚手で両端で反り、相輪部の明快な刻みだしなど、南北朝時代の14世紀半ばから後半にかけての作品とみられる。



都甲八幡社石造仁王像

■有形 ■指定日：平成24年12月27日
 ■所在地：築地 ■年代：江戸時代中期

（阿行像）194.0 cm（吽形像）189.0 cm。阿・吽両像とも、外側の手を顔の横にあげ、左手を下げて直立する。大きめの頭部に比して短軀の体貌を示し、忿怒の表情はユーモラスでさえある。台座側面に陰刻銘があり、明和5年(1768)、熊野石工松本儀平次の作になることが知られる。



大門坊磨崖仏

■有形 ■指定日：平成24年12月27日
 ■所在地：田染真中 ■年代：室町時代

崖面の北壁から南壁にかけて、坐像2軀、立像3軀、計5軀の尊像が薄肉彫りされる。尊像は、向って右から、多聞天立像、薬師如来坐像、金剛界大日如来坐像、尊名不詳の仏像、不動明王立像が横一列に並ぶ。このうち一際大きく表わされる薬師如来像と大日如来像の、稚拙で大らかな作ぶりからは、室町時代も15世紀後半から16世紀にかけての頃の造建と考えられる。



若宮八幡社祭礼絵図・縁起

■有形 ■指定日：平成24年12月27日
 ■所在地：御玉 ■年代：江戸時代

祭礼絵巻は幅 52.5 cm、長さ 1010.0 cm。若宮八幡社の秋の大祭の御下りの様子を、御神体を乗せた神輿が、本宮を出発して宮町の下宮に至るまでの行列として描いている。

縁起は幅 39.0 cm、長さ 425.0 cm。創立・沿革の縁起から祭神とその靈験譚にいたるまで、御家流の流暢な筆致で墨書する。



間戸二層塔

■有形 ■指定日：平成25年1月29日
 ■所在地：田染真中 ■年代：南北朝時代

基壇1段に基礎2段、その上に平面方形の蓮華座をのせ、初層軸部・笠、二層目軸部・笠、露盤・相輪を重ねる。相輪の大部分を失うが、各部材を柄嵌め込みとする堅牢な構造と、丁寧な彫刻を見せるこの塔は、初層、二層目の連結具合やバランスも良い。その優れた造形から、年代的には南北朝時代は14世紀前半頃の造立とみられる。



中之島旅館石殿

■有形 ■指定日：平成25年1月29日
 ■所在地：玉津 ■年代：南北朝時代

六郷山中山本寺の一ヶ寺天念寺に旧在したこの石殿は、一部に欠損はあるものの比較的保存状態も良く、そして何よりも銘文によって、暦応4年(1341)という造立年代と、中世の六郷山に関わる造立の経緯が知られる点できわめて重要である。



算所観音十一面観音坐像

■有形 ■指定日：平成25年1月29日
 ■所在地：新栄 ■年代：鎌倉時代後期

桧材寄木造、玉眼、彩色、像高 41.5 cm、膝張 28.0 cm。

本格的な構造・技法と、洗練された作ぶりを見せる本像は鎌倉後期、13世紀後半頃の中央仏師の作とみられ、蓮華座の蓮弁など一部に欠損はあるものの、総体に保存状態も良好である。



二宮八幡石造仁王

■有形 ■指定日：平成25年1月29日
■所在地：田染真中 ■年代：江戸時代

安山岩製。像高（阿形）225cm、（吽形）224cm。阿吽両像の表情豊かな忿怒相から、力のこもった胸腹部や四肢の肉付け、下半身の裳に刻む的確な衣文など、その形式上の特徴は田染石工の手によるものとみられる。天保6年（1835）に造立。



応暦寺千手観音立像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：鎌倉時代

応暦寺の本尊とされ、六郷満山寺院の観音像のなかで最も大きい。三軀の頭上面を戴き、四二臂をつくりだしている。面貌端厳で、天衣裳衣の線は流麗である。鎌倉時代かそれを遡る製作といわれる。



多宝院の毘沙門天立像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：有寺 ■製作年代：鎌倉時代

一木彫成の彫眼彩色像である。台座は邪鬼および岩座とも一木彫出。

宝塔を掌中に棒持し、腹獅噛は克明に彫成されている。技法様式から鎌倉時代の作とみられる。



応暦寺の阿弥陀如来像坐像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：室町時代

上品上生の印相を結ぶ寄木造り漆箔像である。目、鼻、口の線は整い胸部より腰部にかけて量感がある。

中央の作風をうけた像容とみる。



無動寺の日光・月光菩薩立像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：黒土 ■製作年代：室町時代

彫眼彩色像で面貌は細目の伏目がちなまなじりをつくり体軀の豊満な肉付けや天衣裳衣の流れなど端麗である。製作年代は室町時代と推定される。日光、月光共に光背部分が欠損して無くなっている。



弥勒寺の弥勒菩薩坐像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：城前 ■製作年代：室町時代

総高 130 cm、像高 85 cm。

顔面を残して漆箔は剥落している。髀部は正中線で前後に割矧ぎ両手はさし手となっている。面貌はきびしい表情をみせ神秘を感じさせる。

以前は、現在の観音堂裏に祠を建て祀っていたが老朽化したため現在の位置に現観音堂を建て直し祀っている。



応暦寺の不動明王立像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：鎌倉時代

像高 81 cm。

寄木造の立像で玉眼を入れ牙を出し忿怒を表す髀軀堂々とまとまった風貌をみせる。下髀部に施された截金紋様は細緻である。台座は後世の補作とみられる。



別十字堂跡の磨崖宝塔

地図番号
00

■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：城前 ■製作年代：室町時代

塔高 96 cm。

城前バス停より南、橋を渡り墓地横の小径を登ること約 200mの山裾にある。巨石中央に浅い龕を設け、宝塔一基が半肉彫されている。丁寧に彫られ、どっしりとまとまった作である。



応暦寺の燈明石像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：室町時代

総高 42 cm、太鼓の直径 19 cm。

寺宝として保管されている燈明石像は、国東半島石造品中の傑作であろう。鼓内で点灯するようになっている。二人の修行僧の表情はユーモラスですばらしい。



三社権現の宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：城前 ■製作年代：室町時代

総高 219 cm。

城前、弥勒寺の境内に隣接する三社権現左側に造頭されている。塔身は無地で差込式。隅飾突起は僅かばかり外方に傾いている。塔身部に納入孔があり、清楚な完形塔である。



中之坊磨崖仏

地図番号
00

■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：黒土 ■製作年代：室町時代

バス道沿いの野田米蔵氏宅裏山を上がると岩層の奥壁に三区の龕がうかたれ中央龕には石造の大日、弥陀の丸彫り坐像が安置。向かって右龕に弥勒半臥思惟像を、向かって左龕には磨崖仏や地藏立像がやや厚肉に彫出されている。



応暦寺の宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：南北朝時代

総高 225 cm。

正面中央に奉納孔が彫られ、隅飾突起は軒隅を少し残し、露盤には縦れんじを、宝珠は火焰で囲まれ全体的にまとまっている。



井口家の宝塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：湯原 ■製作年代：南北朝時代

総高 228 cm、197 cm。

湯原、井口家の墓地に二基造立されていて一基は総高 228 cm。格狭間を刻出。他の一基は総高 197 cmで前掲の塔と殆ど同形である。



堀内家の国東塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：湯原 ■製作年代：安土桃山時代

総高 207 cm。

堀内家邸内にある。基礎二重にして四面に格狭間が刻まれ、台座は反花のみで塔身は壺型、笠は照屋根となる。



真玉八幡社の国東塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：大村 ■製作年代：鎌倉時代

総高 286cm。

石質角閃安山岩、相輪下部破損、笠は照屋根であるが、笠上端と軒口の距離が遠すぎるので均整を失った感じがする。

塔身は立派で、首部の奉納孔とは別に中央に縦 7cm、横 22cm の長方形の窓を開けて内部の空洞まで穿ってある。



真玉氏墓地

地図番号
00

■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：寺原 ■製作年代：室町時代

塔高 96 cm。

城前バス停より南、橋を渡り墓地横の小径を登ること約 200mの山裾にある。巨石中央に浅い龕を設け、宝塔一基が半肉彫されている。丁寧に彫られ、どっしりとまとまった作である。



大塚古墳

地図番号
00

■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：金谷 ■製作年代：古墳時代

県北最大の周濠をもつ典型的な前方後円墳。

古墳全体を二重の周濠が廻り、墳丘全長 100m 強で外濠を含めると全長約 135m に及ぶ。墳丘は高さ約 8m、前方部は 2mほど低い。この北東 70mに陪塚と伝えられる小塚古墳がある。いずれも 5 世紀後半の築造とみられる。

前方部の一部が社殿造営のため、後円部も一部削り取られているのは残念なことである。



山田家国東塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：常盤 ■製作年代：室町時代

常盤、田ノ口の山田家墓地内にある。各面に格狭間がある。台座は単弁 12 葉の蓮華座と複弁 8 葉の反花が一石で 彫成され塔形もよく均整のとれた完成塔である。



三井寺国東塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：庄屋 ■製作年代：室町時代

総高 262 cm、232 cm。

台座の大きな蓮弁は見事なもので、上辺には塔身をうける浅い造出しがある。232 cmの国東塔の笠は波屋根で塔身とのつり合いもよく堂々としている。

相輪部が後家合わせになっている。



安養寺石殿

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：大岩屋 ■製作年代：室町時代

総高 160 cm。

山門前に国東塔と対峙して造立してある。軸部の正、背面に各三軀の地蔵を、側面各三軀の地蔵を、側面に各一軀の十王像を薄肉彫してある。屋根は入母屋造りで妻に懸魚を刻出しているが一部が破損している。



西畠寺跡国東塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
 ■所在地：西畑 ■製作年代：南北朝時代

総高 230 cm。

西畑、西畠寺跡の境内入口にある。基礎二重で格狭間の刻出をみる。台座は蓮華座と反花をそろえ、塔身は胴の張りがよい。



久保宝篋印塔

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：横山 ■製作年代：安土桃山時代

塔高 180 cm。
金比羅社入口にある。

完形塔で造立年代は桃山時代と推定されどっしりと落ち着いた秀作である。上部側面には一面2個ずつの格狭間が刻してあり納入孔もある。



妙見社環状列石

地図番号
00■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：時安 ■製作年代：先史時代

猪群山の北西、時安の裏山にある巨石群で妙見社にある。

直径 10m余りの環状列石で 8 個の積石を囲んでいる。ケルンは磐座でありサークルは神籠、古い神社形式で祭神は天祖（北辰妙見大菩薩航海安全の神）ドン祭りがある。



猪群山頂環状列石

地図番号
00■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：横山 ■製作年代：先史時代

直径東西に 33m、南北 42mの円状猪群山頂に 4m余の太陽石があり、巨石で二重に囲まれている。飯牟礼社の上宮で彦火火出見尊（太陽仏）を祭る古代遺跡が女人禁制の聖地、雨乞いの千把焚、牛の正月の祭りがあり拝火教的である。山城に利用されたといわれる。



地藏板碑

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：横山 ■製作年代：室町時代

頂部が三角形の板石に像高 82 cmの地藏立像を半肉彫してある。左側面に天文 18 己酉 8 月吉日敬白、右側面に謹奉造立小門七郎左衛牟吉次と銘文があり、小門家の祖先墓として祀られている。



小河内庚申塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：小河内 ■製作年代：江戸時代

塔高 160 cm。

小河内部落、岩仲寺参道傍に二基の庚申塔が併立している。

寄棟造りの笠をつけた塔は一面六臂の正面金剛を主尊として上方に日、月、瑞雲を下方に二鶏三猿、四夜叉を丁寧に刻出。



有寺庚申塔

地図番号
00

■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：有寺 ■製作年代：江戸中期

有寺を上りつめた三叉路の辻に造立されている。3枚の自然石を立てかけた上に宝珠を載せた唐破風の屋根を置いて作った石室に祀ってある。主尊の青面金剛は丸彫りの一面二臂で、頭髮は縮れ鼻は高く風貌は西歐的で他に例をみない異作である。享保4年の銘文がある。



応暦寺文書

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：江戸時代

六郷満山中山本寺の一つで、山号を大岩屋という。この寺の由緒は古いが、現在残されている古文書は何れも近世のものである。それには寺の四至を示す方境や、一般に奥の院と呼ばれる小堂に安置されていた聖観音の堂の類焼のことなどが記されている。



身濯神社の寄進札

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：黒土 ■製作年代：平安後期

身濯神社社殿が再建された享保9年(1724)3月4日から5月5日までの間に諸人から贈られ寄付を記したものである。材質は杉を用いている。当時の世話役で(黒土村庄屋でもあった)仲利左衛門や当時この西側にあった小岩屋山無動寺の坊の一つ「中の坊」などの名も見られる。



応暦寺奥の院の寄進札

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：江戸時代

行者達が峯入りの際に立ち寄って休んだ「姨が懐」と呼ばれる。小さなお堂にある寄進札のことで、これは天保5年(1834)8月に再建された時のもので、享保2年(1717)3月7日の夜焼失した記録(応暦寺文書)がある。



前田の庚申塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：城前 ■製作年代：江戸時代

総高 190 cm。

町内上真玉字城前前田の田の畦にあり、承応年間(1652～1654)の作銘があったが詳細は文字の磨滅により不明。板碑型に属し、今のところ町内最古のものと推定される。現在は田園になっているが、このすぐ近くに6地蔵があり当時はこの近辺に主要道路があったらしい。



身濯神社磨崖宝塔 六基

地図番号
00

■史跡 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：黒土 ■製作年代：室町時代

3つの龕に7基以上の宝塔があり、その後の調査で社殿西部にも2つの龕に4基以上の宝塔が発見された。この西側に旧無動寺があったので、その関係があるものと思われる。



田原家一石五輪塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：西真玉 ■製作年代：鎌倉時代

総高 89.2 cm、81.5 cm。

同家前に2基並んで立っており、大きい方は高さ89.2 cm、火輪と水輪の間で分離でき、水輪上部より幅13 cm、深さ37 cmの深い穴が穿っており内部に焼骨が残存していた。小さい方は81.5 cmで、一石五輪どちらも四方に梵字が刻まれ年代は共に鎌倉期とみられる。



椿の大木

地図番号
00

■天然記念物 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：白野

万年寺の境内にあり、原木は樹齢 1300 年ともいわれるが樹勢はいまだ衰えていない。枝先はやや北東に広がり椿としてはかなりの大木である。苔など他の草木を人工的に植えつけられている。



山桃の古木

地図番号
00

■天然記念物 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：黒土

樹齢は不明。佐當角雄家右後方裏山にある。枝先はやや南西方角に傘状に広がり古木の下より 2m位の幼木が元気よく伸びてきている。



湯前公園宝塔群

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和52年1月12日
■所在地：城前 ■製作年代：室町時代末

総高左から 238 cm、130 cm、130 cm、160 cm、270 cm

元々は別々の場所にあったが、現在の場所に集められたもよう。

国東塔 3 基、宝篋印塔 1 基、宝塔 1 基の計 5 基からなる。うち、宝篋印塔 1 基が相輪部が欠損している。



応曆寺仁王像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成24年12月27日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：江戸中期

像高(阿形像)147.0cm(吽形像)145.0cm。腰を外側に振った両像の体勢は、阿・吽の対峙の緊張感をあらわし、阿・吽両様の忿怒相から、筋骨を浮き立たせた体軀や下半身の裳にいたるまで、写実的で手慣れた彫技が行きわたっている。その造形的特徴は、夷石工の中で板井甚蔵の手になる仁王像に近似しており、両者の影響関係が考えられる。阿・吽両像の台座に以下の銘文があり、享保13年に宇佐石工鶴田好昌の造立になることが知られる。



応暦寺地藏菩薩立像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成24年12月27日
■所在地：大岩屋 ■製作年代：江戸時代

安山岩製。総高3mを超える巨像であるが、頭・体のバランスも良く、地藏の温和な表情から体部の豊か肉付け、実感のある衣文の刻出まで、手慣れた彫技を見せている。

真玉大岩屋を本拠として活躍した石工安藤源平国恒が近隣の石工達の協力を得ての一世一代の大事業であったことが知られる。



清台寺宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成24年12月27日
■所在地：城前 ■製作年代：室町前期

塔高186cm。

基壇一段に、基礎一段は側面無地で上面に段形3段を造り出す。塔身はこれも側面無地で、上面から内部を削り込み、側面上部に納入孔を穿つ。塔身にはめ込みとする笠は下面に3段、上面に5段の段形を刻みだし、その最上段を露盤とし連子窓をあらわす。隅飾り突起は大きめでやや外に開く。相輪は九輪上部から上を欠失し、別物の宝珠を接合している。古式の宝篋印塔の形式を残しながら、省略化が進行しており、その形態から判断して15世紀前半頃の造立であろう。



清台寺仁王像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成24年12月27日
■所在地：城前 ■製作年代：江戸中期

像高（阿形像）171.0 cm（吽形像）167.0 cm。ほぼ等身大で天衣の遊離部を含めると2mを越す大きさがある。ただ、抑揚に欠ける体部の肉取りや、ぎこちない手足の動き、極端に短い腰裳など、総体に稚拙な表現が目立つ。両像の台座前面に陰刻銘があり、享保6年（1721）の造立年代が知られる。



大平金毘羅社仁王像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成24年12月27日
■所在地：大平 ■製作年代：江戸末期

像高（阿行像）101.0 cm（吽形像）104.0 cm。忿怒の表情から、両手足の動き、筋肉の躍動感、写実的な衣文の刻みだしなど、力強くかつ均整のとれた造形を見せている。両像の台座に以下の銘文が陰刻され、元治2年（1865）、「仏師法橋定勝」の作ということが知られる。



叶渚国東塔

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：香々地 ■製作年代：江戸時代

総高 300 cm。

香々地字叶渚の観音堂の境内に立つ。基礎二重一面に2個ずつの格狭間をもつ。塔身は球形、笠は照屋根で下端は水平、宝珠に立派な火焰をもつ。旧香々地町内での典型的な国東塔である。江戸時代初期と推定されているが、あるいはもっと古いかもしれない。



霊仙寺国東塔

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：室町中期

総高 183 cm。

霊仙寺の境内にある。

笠と相輪は別物の感じがする。格調の高い優秀作である。

基礎三重一面に格狭間がある。



早田国東塔

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和55年10月1日
■所在地：香々地 ■製作年代：南北朝時代

総高 287 cm。

早田の殿屋敷と呼ばれる畑の端の塚を発掘して出てきた部品を組み立てたものである。旧香々地町内の殆どの国東塔は無銘だがこれには「暦応四年」と読める陰刻がある。塔身の四方に四仏の種子がある。蓮華座の反花の様であるが異様である。石造物の台座に裳懸座というものがあるが、それであるという。



長谷寺跡国東塔

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：堅来 ■製作年代：南北朝時代

総高 229 cm。

格狭間が特に優秀。台座は反花だけである。

笠、相輪が大きすぎる感があるが、それがまた重厚感をもたらす。



実相院国東塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：夷 ■製作年代：安土桃山時代

総高 389 cm。

塔身の首部は同じ石から成るのが普通だが、ここでは首部に別石を使っている。旧香々地町内の国東塔の中で最も大きい。



山王社宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成4年1月27日
 ■所在地：上香々地 ■製作年代：江戸時代

総高 400 cm。

宝篋印塔の体裁を備えた大乘妙典一字一石塔である。

施主は、長小野村の有力者上園甚兵衛。石工は、夷村の猪股勇助らである。大乘妙典とは法華経のことで、人間の全般的救済を目的とし、そのため建てられた。



梅松寺宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：小畑 ■製作年代：室町時代

総高 160 cm。

塔身四面に四仏の種子を刻む。

入念に仕上げられた完全体で優雅な優秀作である。隅飾りは直に近く宝珠には火焰がある。全体がみごとにつり合っている。梅松寺はもと200m程離れた古寺にあったという。



虎御前宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：夷 ■製作年代：江戸時代

総高 137 cm。

「権大僧都真如院」の銘がある。

中山仙境の一角の岩の上にある。ここに限らず今は倒壊しているが、羽根儀丁場でも佐古ガタン堂跡でも宝篋印塔のある所は展望のきく場所が多い。

儀丁場の山頂も虎御前といい小畑にも虎御前の名がある。



竹田津家宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：見目 ■製作年代：江戸時代

総高 174 cm。

東智庵裏山、竹田津家墓地にある。

基礎、格狭間、塔身、隅飾突起などからなる優雅な感じのする優秀作である。左側に□□□六月十一日とある。

明暦3年(1657)。



道園宝篋印塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：江戸初期

総高 168 cm。

塔身四面に四仏の種子を彫む。

塔の各部が完備した安土桃山時代の優秀作である。

慶長10年(1605)。



今倉家層塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：室町時代

総高 197 cm。

今倉家の祖塔といわれている。

二層の塔であり、頂上の宝珠がない。基礎、台座、塔身、笠など入念に造られている。塔身に種子があり、赤色顔料が残る。



長谷寺跡三層塔

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：堅来 ■製作年代：室町時代

総高 181 cm。

塔身に四仏の種子を彫刻してあった痕跡がある。各層別の石で組み立てられている。

均整を欠き、寄せめではないかと思われる。相輪部を欠損している。



金伏石幢

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：上香々地 ■製作年代：江戸時代

総高 218 cm。

中台には大型単弁の蓮華、龕部には六体の地藏立像を彫ってあり、その上に笠をして宝珠となっている。この塔は昔、竹田川の近くの所にあったのを移したもの。この塔は六地藏を拝む民間信仰のため建てられたものであろう。



横岳石幢

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：夷 ■製作年代：江戸中期

総高 180 cm。

石質の違う石でできた龕部の六地藏像は彩色してあったようである。年号のほか「施主 仲野市郎衛門」の銘がある。竿上部に蓮弁、中台に蓮弁あり。

正徳5年(1715)。



施恩寺仁王像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：上香々地 ■製作年代：江戸中期

総高、阿形 122 cm、吽形 121 cm。

この地域では珍しく花崗岩で出来ている。天衣は首から肩にかかる。忿怒の形相もよい。別宮八幡社に奉献されていたものであるが神仏分離令が出た際、願主の能丸家に返され、改めて檀那寺の当寺に奉納された。花崗岩はこの地に産しない。どこかよそで造られ、船で香々地に運ばれたと伝えられる。元文2年(1737)。



堅来八幡仁王像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
 ■所在地：堅来 ■製作年代：江戸後期

総高、阿形 140 cm、吽形 146 cm。

腕の表現が大きく力強い。

在地の名工、法橋板井国光の作である。

腕の表現が大きく力強く、吽形像の天衣も立派で重量感に

満ちている。顔から胸にかけ苔が生えている。天保10年(1839)の銘がある。



霊仙寺仁王像 1

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：不詳

総高、阿形 230 cm、吽形 180 cm。
霊仙寺の山門両側にある。
顔の表情や体の表現が阿吽で異なる。天衣は、
宙を舞っている。稚拙の美が感ぜられる。
厚さ 25 cmほどの板石に半肉彫り。



霊仙寺仁王像 2

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：江戸末期

総高、阿形 180 cm、吽形 175 cm。
地蔵像の両側にある。この仁王像には忿怒の
形相はなくむしろ愛らしささえ感じる。石工は、
阿形像は法橋板井利三郎国良、吽形像は法橋板
井林三良国政となっている。六所宮より移建さ
れたものという。嘉永7年(1854)。



霊仙寺地蔵尊像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：江戸末期

総高 634 cm、像高 487 cm。
石仏像としては国東半島最大のもの。仏師は
板井一門の利三郎(国良)、林三良(国政)、徳
四郎(国吉)でいずれも法橋位を授けられた人
である。運搬、建立には村民総出で当たると伝
えられる。安政7年(1860)。



秋本十五仏石

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：上香々地 ■製作年代：室町時代

高さ約 130 cm、幅約 100 cm。
中央は地蔵尊のようだが全体に風化してい
て何仏か分からない。弥陀、薬師、普賢、不動、観音、
虚空蔵、地蔵、釈迦、勢至、大日、弥勒、文殊、
阿閼が十三仏でその他二仏を加えたものであ
ろう。香々地では珍しい石造物である。



谷ノ迫磨崖像

地図番号
00■ 史跡 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
■ 所在地：夷 ■ 製作年代：室町時代

岩壁を横 117 cm、縦 55 cm、深さ 10 cm に彫りくぼめた中に浮彫りされた二尊座像がある。この二尊は大日如来と勢至菩薩を表すものという。この磨崖像に隣接して墨書種子、二尊立像、夫婦立像がある。いずれも南北朝のものと推定。地元の人々は、形代様と呼ぶ。



六所神社磨崖像

地図番号
00■ 史跡 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
■ 所在地：夷 ■ 製作年代：室町時代

中尊像高 80 cm。

六所神社の門を入ると右手の岩にある。三体の像が浮彫りされている。中尊像高 80 cm ほどである。八幡大菩薩といわれる。両側の二体は男女像である。石造覆屋は近年造ったもの。



早田庚申塔

地図番号
00■ 有形 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
■ 所在地：香々地 ■ 製作年代：江戸時代

像高、阿形 225 cm、畔形 240 cm。

樟材寄木造 筋肉隆々、忿怒相かつて馬城山伝乗寺が隆盛を誇っていた頃、聖地守護としての遺物である。市内では珍しい木製の仁王像である



川原寺板碑

地図番号
00■ 有形 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
■ 所在地：上香々地 ■ 製作年代：南北朝時代

総高 160 cm。

川原寺の東の山のもと観音堂跡に倒れていたものを移建したものを。

墨書の痕らしいものがあるが判読困難。横に小形のものもある。



釈迦堂釈迦像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：香々地 ■製作年代：江戸時代

総高 90 cm、像高 50 cm。

堤地区公民館横に釈迦堂があり祀られている。両手とも昭和初期に後補されたものという。この像はかつて別宮八幡にあったが明治の神仏分離の際この地に移転されたものである。八幡神の本地は阿弥陀であるから阿弥陀像ではないかとの説もある。



焼尾の阿弥陀像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：平安後期

像高 91.1 cm。

櫃の一木造りで優雅な姿である。藤原時代の作で中央仏師の流れをくむ地方仏師の作であろうといわれる。往古この地に焼尾岩屋という道場があった。今は、阿弥陀堂が建てられており、その須弥壇に多くの他の仏たちとともに安置されている。



横岳観音像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：戦国時代

総高 83 cm、像高 50 cm。

有銘の木造仏では旧香々地町内で最も古い。観音堂の天井は女竹の簀編みである。堂内に仁王像一対もある。

地元では、木浦松観音堂ともいう。文亀 3 年 (1503)。



伽藍堂阿弥陀像

地図番号
00

■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：見目 ■製作年代：江戸時代

総高 110cm、像高 75cm。

金色に輝く気高い姿の阿弥陀像である。昭和になって阿弥陀仏に金泥を施したと伝える。



大乘妙典一字一石塔

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：羽根 ■製作年代：江戸末期

総高 218 cm。

記誌した人は、大平山梅松寺現住江禪となっている。一字一石塔というのは小石に経文一字ずつ書写し、土中に埋め、その上に立てた塔で三界万霊供養のためのものである。

宝暦6年(1756)。



別宮八幡楼門

地図番号
00■有形 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：香々地 ■製作年代：明治時代

別宮八幡の総代、氏子がこぞって造営に尽くした。発起し、特に尽力したのは堤勘三郎と木下茂十郎であったという。棟梁は日田の宮大工(専蔵)であったという。単身この地に乗り込み、地元の腕利き大工の協力を得て数年かけて完成したという。各所に見事な彫刻が施されており、近郷にまれにみる高壮雅麗な楼門である。



戎子橋

地図番号
00■有形 ■指定年月：平成元年4月27日
■所在地：香々地 ■製作年代：明治時代

別宮八幡の総代、氏子がこぞって造営に尽くした。発起し、特に尽力したのは堤勘三郎と木下茂十郎であったという。棟梁は日田の宮大工(専蔵)であったという。単身この地に乗り込み、地元の腕利き大工の協力を得て数年かけて完成したという。各所に見事な彫刻が施されており、近郷にまれにみる高壮雅麗な楼門である。



霊仙寺一帯

地図番号
00■史跡 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：中世

六郷満山末山本寺であった霊仙寺を中心として実相院、六所権現、霊仙寺墓地などを含む一帯で文化財が多い。

主要文化財は、霊仙寺仁王像二対、霊仙寺国東塔、板五輪塔、

地藏尊、実相院国東塔、六所神社磨崖像、六所神社平安木佛などである。



施恩禪寺

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
 ■ 所在地：上香々地 ■ 製作年代：室町時代

南北朝時代この地の地頭は田原貞広であったが、その子の南溟禪師が開いた。なおそれ以前にここには靈源寺という寺があったとも伝えられる。境内には観音堂、十王像、無縫塔、羅漢像、地藏像、仁王像、禽獸供養塔、蠢靈大明神など文化財が多い。



叶瀨観音堂

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
 ■ 所在地：香々地 ■ 製作年代：江戸時代

境内に国東塔、五輪塔、庚申塔、大乘妙典一字一石塔など多数の文化財がある。明治18年建設の石祠あり、三重の基礎の上に立てられ中に観音石像を安置、左側面に次の銘文がある。



中山観音堂

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
 ■ 所在地：見目 ■ 製作年代：江戸時代

真玉香々地観音霊場第31番札所となっている。

境内には国東塔、庚申塔、地藏像、板碑、五輪塔など多数の石造文化財がある。特に珍しいのは、両面板碑である。



長谷寺跡

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：昭和45年10月1日
 ■ 所在地：堅来 ■ 製作年代：江戸時代

観音霊場第26番札所となっている。境内に国東塔、層塔、宝篋印塔、五輪塔など文化財が多い。

観音堂は四体の仏像がある。観音菩薩、阿弥陀如来、左右に金剛力士。



伝吉田光由墓他

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：平成3年4月27日
 ■ 所在地：夷 ■ 製作年代：江戸時代

総高 125 cm。

吉田光由は江戸時代初期の大数学者で主著は有名な塵劫記である。晩年熊本の細川公に招かれていたが、その後諸国を巡遊し、その時夷に来て留まり稽古庵という塾を開いて子弟に数学を教育した。その光由の墓と伝えられる墓である。高弟の渡辺藤兵衛の墓もすぐ近くにある。



越路五輪塔群

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：平成13年12月21日
 ■ 所在地：越路 ■ 製作年代：安土桃山時代

五輪塔の原形をとどめないものを含めると90基以上が確認できる。真玉氏滅亡の地とつたえる。以前は宝塔、五輪塔等頗る多く「悲劇の地」の面影があったが盗難にあい今は少ない。



尾崎古墳

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：平成6年11月4日
 ■ 所在地：尾崎 ■ 製作年代：古墳時代

岬古墳ともいわれ、自然の家敷地内にある。



別宮八幡銀杏の木

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：平成6年11月4日
 ■ 所在地：香々地

樹高約 35m、樹囲約 4m。

地上から一の枝まで約 10m。雄木で香々地一円の雌木に花粉を供給している。



夷里神楽

地図番号
00

■無民 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：夷 ■製作年代：江戸時代

六所神社関係の古記録に「安永6年(1777)六所権現に神楽を奉納した」とあるから、その頃にこの神楽はあったものと思われる。この里神楽は二部23番から成り立っており、前部10番までが里神楽、後部11番から岩戸神楽で全部を舞い納めるには約16時間かかる。この神楽は、六所神社春秋二季の大祭(4月15、10月9日)に奉納される。



見目神楽

地図番号
00

■無民 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：見目 ■製作年代：江戸時代

1 地域の人たちの手によって大切に継承されてきているが、継承者不足。毎年、4月3日・15日、9月15日、10月第一土曜、日曜日に別宮八幡の神楽殿にて奉納される。



お田植え祭り

地図番号
00

■無民 ■指定年月：昭和45年10月1日
■所在地：香々地 ■製作年代：室町時代

旧暦の6月29日、30日の祓祭に神事として行なわれてきた農耕の予祝行事であった。この御田植は極めて写実的で、田植えのなかんづく牛使いの苦労を再現して豊作を祈願する行事だが農民の必死の思いが込められている。時あたかも夏、苦しい田植、つらい水田の一番草も終わってほっと一息つく農家の人々にとって大きい慰めである。



小畑正一位稻荷大明神の祠

地図番号
00

■有形 ■指定年月：平成17年1月24日
■所在地：門出 ■製作年代：室町時代

基壇2段、基礎1段の上に、切妻屋根の正面に唐破風の向拝を付けた春日造の形式を示す。石造とはいえ、細部の組物や飾り物など細やかな構造をもつ。母屋背面および基礎部分に以下の銘文が陰刻される。(母屋背面)大正十三年／七月十七日／建之／小畑上講中(基礎背面)石工棟梁／土谷儀造／土谷勝治 真玉城前を拠点とする土谷姓石工の代表作。



中村宝篋印塔

地図番号
00

■ 史跡 ■ 指定年月：平成17年1月24日
 ■ 所在地：中村 ■ 製作年代：南北朝時代

安山岩製基壇1段の上に基礎2段、塔身、笠をのせ、相輪を立てる。基礎・塔身ともに側面は無地で、笠上の隅飾突起は大きめでほぼ直立する。太く丈の短めの相輪は、基部の蓮華座が断面方形で、彫りも省略的である。形式上の特徴から南北朝後半（14世紀後半）ころの造立であろう。



施恩寺観音堂石像

地図番号
00

■ 有形 ■ 指定年月：平成24年12月27日
 ■ 所在地：香々地 ■ 製作年代：江戸時代

臨済宗施恩寺の観音堂に安置される両像は、向って右が、施恩寺の開山で、実は国東郡地頭職田原氏4代貞広の子、つまり5代氏能の弟にあたる南溟殊鵬像と伝え、左は香々地見目にある同じく臨済宗寺院東智庵の開山無隠元晦像と伝える。いずれも頂相(禅僧の肖像)としてはやや小ぶりであるが、気魄に溢れた個性的な表情、写実的な衣文表現など像主を念頭においての制作であることを窺わせる。



中山観音堂国東塔

地図番号
00

■ 有形 ■ 指定年月：平成25年1月29日
 ■ 所在地：見目 ■ 製作年代：室町時代

基壇1段に基礎1段をのせ、基礎は側面に2区の格狭間をあらわす。その上に請花・反花の蓮華座、球形状の塔身、軒口厚く反りの強い笠を重ね、太めの塔身を立てる。基礎格狭間や蓮華座蓮弁、九輪の刻みなどに彫り浅く形式化の傾向が強い。(15世紀前半)ころの特徴を示す。



五郎丸国東塔

地図番号
00

■ 有形 ■ 指定年月：平成25年1月29日
 ■ 所在地：香々地 ■ 製作年代：戦国時代

①167.5 cm、②175.0 cm。

法量にやや違いはあるが、全く同じ形式をもった、いわば兄弟塔である。いずれも笠四隅の一部を欠損する以外は、基壇、基礎、反花・請花の蓮華座、塔身、笠、相輪のすべてを完備する。この特異な形式をもつ国東塔は、香々地から国東半島北東部にかけて分布があり、年代的には16世紀前半頃の造立であろう。

